

編集/発行

牧之原市教育委員会

牧之原市菊川市学校組合教育委員会

〒421-0592 牧之原市相良 275

TEL: 53-2642 FAX: 53-2657

E-mail:

kyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp

まきのほら

# 教育委員会だより

競い合う地域の教育力 ～通学合宿などを通して地域教育力の向上をめざしましょう～



【牧之原市長 西原茂樹】

「子どもは牧之原市の宝」  
です。牧之原市の子どもは  
牧之原市が責任を持って育て  
るわけですが、それぞれの  
学校区についても同じことが  
言えると思います。

私は最近、片浜小学校と  
勝間田小学校と細江小学校の3校の通学合宿に出かけ  
ました。

プロジェクターを使って、子どもたちが牧之原市に  
誇りを持ってもらい好きになってもらえるようお話し  
することが私の目的です。そんな中でちょっと変わった  
授業を行いました。

細江小学校は、1年生から6年生58名が3泊4日で、  
榛の木会館で通学合宿をします。名づけて「細小  
じまん塾」は、PTAだけではなくて区長さんや地域  
の女性委員もスタッフとして参加しています。

私がこの「細小じまん塾」に伺ったのは、お話をし  
に行ったのではありません。料理教室の講師として  
出かけました。私は料理が意外と好きで、お弁当は  
今でも作っていますし、簡単なチャーハンや卵料理  
などは時々作ります。そんなことをいろいろな会合で  
話していましたら、「市長が本当に作れるなら学校で  
やってほしい!」と依頼を受け「市で進めている食育  
の話ができること、そして男女協働という視点からも  
重要だ!」と思い、二つ返事で引き受けました。

子どもたちが作るのでできるだけ簡単なものが良い  
と、迷うことなくチャーハンを選びました。地元の  
野菜を持ち寄って入れれば地産地消です。さらに、  
地元のサツマイモをさっと油で揚げたかりんとうも  
作りました。

私の手先とお話を熱心に注目している子どもたちに、



【細小じまん塾で料理を教える西原市長】

ハムを細かく切り始めた時間きました。

「このハム、賞味期限が切れていたらどうする?」

「食べない!捨てる!」と言う子どもが多かったと  
思います。保護者にも聞きました。保護者の意見は  
「口で味わって、おかしければ吐き出す」が多く、  
そんな回答に内心ほっとしました。

最近、食の安全が揺らいでいます。国や企業に厳し  
くやってもらうしかありませんが、私たちの人間力も  
鍛えておかなければならないと思います。世界中どこ  
でも、賞味期限のしっかりした食材が提供されてい  
ると思ったら大間違いです。

これから世界と交流する子どもたちに、賞味期限の  
記述に惑わされることなく口に入れてみて舌で判断  
できる力は、親の責任で付けておいてやるべきです。

「生きる力をつける教育」も、学校給食で「臭いを  
嗅いで食べてみて、まずければ吐き出す」なんていう  
危険なことはできません。

大騒ぎの後、できたチャーハン全ての味見をして  
回りました。味は様々ですが、どれもとてもおいし  
かったのは言うまでもありません。

「食育と男女協働」は伝わったと思います。

これからも、市内の小中学校へ出前講座に出かけて  
行きたいと思います。



# 安心・安全の学校づくりをめざして

## 市内小・中学校の体育館



### すべて耐震工事が完了



▲完成した勝間田小学校 体育館

今年度、4月から行ってきた萩間小学校、勝間田小学校、坂部小学校の体育館の耐震補強工事が10月末に完了しました。これにより、牧之原市内の学校体育館の耐震化率は、100%になりました。耐震性能が劣る残り5棟(相良中学校格技場、榛原中学校武道場、技術棟、牧之原中学校校舎棟、技術棟)も計画的に耐震化を行い、平成22年度末に完了する予定です。

相良中、改築した牧之原中の体育館では、災害発生時の避難地として、防災合宿が行われています。子供たちが宿泊訓練、救命法などの体験を通して防災の意識を高めています。



【牧之原中 防災合宿の様子】

子どもたちは、私たち牧之原市の宝です。安全・安心な学校を提供し、快適に学習することによって、牧之原市、日本そして世界を担う大人に成長してくれるよう、これからも学校施設の耐震化を積極的に進め、進んで学ぶ取り組みができる環境づくりを目指していきます。



▲萩間小学校の体育館

## 学校支援コーディネーター 地域ボランティアと学校の橋渡し

10月から「学校支援地域本部」を設置し、地域と学校をつなぐ役割としての活動を開始しました。これからの教育は、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協力の下に進めていくことが求められます。「学校支援本部」は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織です。学校とボランティアとの連絡調整を学校支援

コーディネーターが行います。コーディネーターは2名で、市役所相良庁舎社会教育室と榛原文化センターに1人ずつ配置されています。ボランティア活動には、学習・部活動の支援、環境整備、登下校の安全確保などがあります。学校を支援する活動に関心をお持ちの方は、ぜひボランティアへの登録をお願いします。(問い合わせ:社会教育室 ☎53-2646)



▲仲よく犬棒かるた(片浜小)



▲いただきます〜す!(勝間田小)

自分のことは自分でできるよ

## 通学合宿

### 市内全小学校で実施



子どもたちが学校や家庭を離れた環境で、仲間と協力しながら自分たちの力で生活体験することにより、日常生活に必要な生活能力を習得するとともにお互いの立場を理解し、協力し合う心を育むことを目的とした通学合宿が市内小学校で行われています。

27回目の開催となる坂部小学校「仲よし学校」や今年初めて行われる3校を含め、市内10校、全ての小学校で行われています。

牧之原小学校では「みんなで協力チャレンジ学校」をキャッチフレーズに6泊7日の「原っ子チャレンジ学校」を実施し、3年生から6年生の35人が参加。教育後援会や祖父母の会、PTAなどが協力して座禅や飯ごうを使ったカレー作りなどを体験しました。

### コーディネーターさん紹介

○横山眞一(細江在住。市文化財保護審議会委員・市青少年健全育成推進員等としても活躍中)

各種領域の人材ボランティアを数多く発掘し、学校・家庭・地域が一体となって、子供を育てる本事業を強力に推進したいと思います。

○坪池芳子(男神在住。法務省委嘱人権擁護委員・相良中学校学校評議員等としても活躍中)

できる人が、できる時に、できることを支援。ご自身の経験や特技を生かし、みんなで学校を支えましょう。

## いきいき活動 グループ紹介

牧之原市生涯学習推進ボランティア

## スマイル

### 五感を活かした直接体験を

近頃は子どもたちの生活環境も変化し、テレビ、コンピューター等の間接体験が肥大化している。

学校の週休二日制が完全実施となる中で、地域の子どもは地域で育み、身近な自然や伝統文化に触れ、驚きや疑問を持ち、発見による感動体験を仲間と共有する素晴らしさや命の大切さを体得させたいという願いを込めて発足した団体が「スマイル」である。

現在スマイル会員は40名。相良凧づくり、凧揚げ、竹細工、塩づくりと塩の道を歩く、魚釣り、ナウマン象と貝の発掘、天体観測、炭焼き、ホテルとトンボの里ピオトープづくり、ビタミン食育、救急救命措置、俳句づくり、音楽等の体験教室を行っている。また、学校支援の放課後クラブ、総合的学習時間の出前講師としても取り組んでいる。

(文責 スマイル 渡邊幸次)



【塩の道を歩きました】

## インフォメーション

### 源間さん、大石さんが教育委員に!

牧之原市菊川市学校組合教育委員会では森木榮一さんの任期満了に伴い、源間藤代さん(東萩間)が、新しく教育委員に任命されました。

また、牧之原市教育委員会では大石幸雄さん(静波)が委員に再任されました。なお、委員会の構成は次のとおり決定しました。

	牧之原市	学校組合
委員長	鈴木干城	岡本敏彦
委員	大石幸雄(再任)	林 重由
〃	鈴木弘子	良知克彦
〃	澤田 衛	源間藤代(新任)
教育長	八木儀一	八木儀一

### 給食センターからのお知らせ



【牧之原市産のお米】

#### ◆ 牧之原産のお米を使っています

相良地区の学校給食では、平成20年11月からご飯に牧之原産のお米を使用しています。地場産物の利用の向上を図り、子どもたちにも命を育む「食」の大切さと、農林水産業・農山漁村の大切さについて、理解を促進するよう取り組んでいます。

#### ◆ 学校給食業務の一部を民間委託へ

相良地区の学校において、平成21年4月から学校給食業務の一部、調理・配送・洗浄・配膳が民間に委託されます。献立の作成や、食材の購入については栄養士が行い、食の安全、衛生管理や食育の指導等は、市が責任を持って行いますので、今までどおり安心・安全でおいしい給食を提供いたします。



【片浜小の給食風景】

### 弥生時代と 中世の海浜集落

## 白百合遺跡

— 静波 —



【出土した弥生土器】

道路工事に伴って、静波地区では白百合遺跡の発掘調査が行われています。6月から始まった本格調査により、砂丘に築かれた弥生時代後期の建物跡、鎌倉時代の建物跡・井戸などが発見されています。海岸線沿いでの集落の発見は県内でも珍しく、今後さらに多くの成果が期待される遺跡です。発掘調査は平成21年3月まで続けられます。



【発掘作業風景】





# わが校のじまん

市内の10小学校と3中学校の『じまん』を  
毎号、紹介していきます。お楽しみに！



【縦割り掃除：振り返りの様子】



【リーダーを中心に燃えた運動会】

## 坂部小学校 「異学年集団で高め合う縦割り活動」

本校では、1年から6年までの縦割り班を結成し、異学年の友だちとのかかわりを通して、お互いをもっと知り、相手を思いやり認め合える人間関係を育てることをねらいとして「縦割り活動」を行っています。

これは、異年齢集団の中でより多くの子どもにリーダーを経験させ、よい意味での「ガキ大将」を中心とした集団形成を図ることをねらいとする、本校の伝統的な行事である「仲よし学校」と相通じるものがあります。

この縦割り活動は、4月の縦割り班結成式から始まり2月の班解散式まで遠足や運動会、長縄チャレンジ、縦割り清掃、縦割り遊び（毎週木曜日の昼休み）等を縦割り班（16班）や4班ずつが結合した4色で行っています。

長縄チャレンジへの取組では、上級生が下級生に跳び方やタイミングの取り方のコツを教える姿が見られたり、縦割り清掃では雑巾の絞り方を教える姿等が見られたりするなど、よりよい人間関係が育まれています。

## 相良小学校 「あすをつくる子」に向かって、「授業・あいさつ・そうじ」三つの一流を目指しています！

皆の誇りである谷川俊太郎作詞の校歌の一節に“あすをつくる”とあります。「授業」「あいさつ」「そうじ」を教育活動の核とし、それぞれにおいて“一流”を目指すことで「あすをつくる子」へと高まることを願って進めています。

とりわけ学校生活の中心、「授業」では各教科の基礎基本のみならず、「聴く力・話す力・考える力」を「確かな学び」ととらえ、それらを「かかわり合い（心のキャッチボール）」を通して身につけさせようと取り組んでいます。



【みんなが聴いてくれる】

3年間の積み重ねを通して、多くの子どもが主体的、積極的に授業に参加するようになり、皆に語りかけるように優しく話す子ども、うなずいたり反応したりして温かく聴いたりする子どもが増えてきました。さらに、「授業がわかる」とする子どもたちの割合が増えていることも授業改善の成果であり、相良小の自慢です。

心が清々する「あいさつ」、黙って隅々まで取り組む「そうじ」と相互に作用し合って、子どもたちはぐんぐん成長しています。

2月に行う「地域公開授業」にぜひ足をお運びください。



【近くの友達と相談。言葉に出すと】

【何だかわかってくる】

### 〈編集後記〉

夏の暑さが一段落したと思っていたら、いつのまにか吐く息が白くなる季節が訪れました。早い時の流れの中で、しっかりと自分の立つ位置を確認しながら、教育行政にたずさわって行きたいです。

★ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください

教育委員会だより編集委員会

電話：53-2642 FAX：53-2657

〒421-0592 牧之原市相良 275

E-mail：kyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp